

(2) 安全に関すること

「安全」については、いじめやいじめられない学校生活が何にもまして基盤になるものと考えられる。ここでは、特に精神的な面での「安全」に関する児童生徒・教師・保護者の意識について分析し、問題点や指導援助の方向性について考察した。

図1, 図2, 図3は、児童生徒の学校生活における安心度を見た。

図1

【児童生徒】 いたずらやいじめられることなく、安心して学校生活を送っていますか。

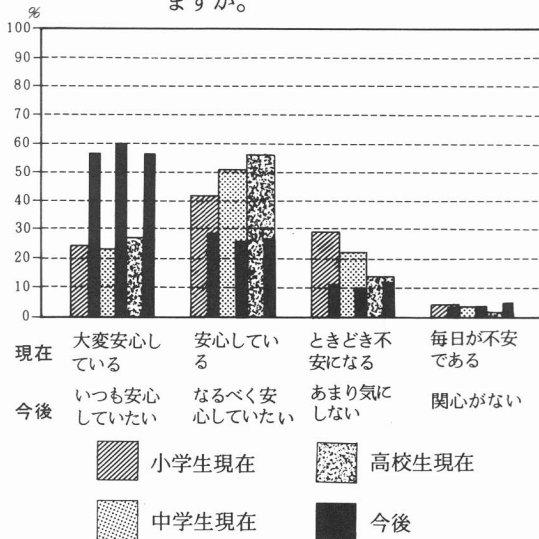


図2

【保護者】 あなたのお子さんは、いたずらやいじめもなく、安心して過ごしていると思いますか。

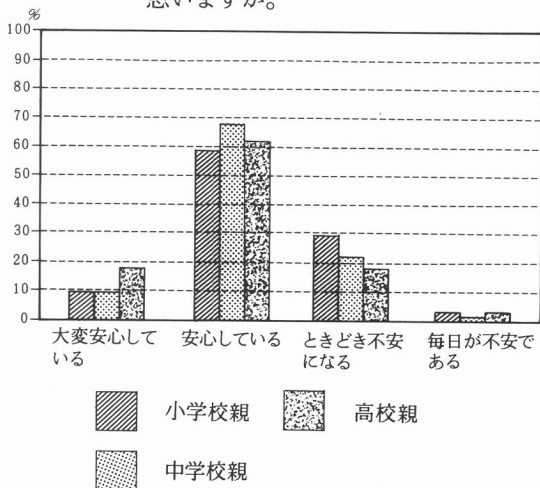


図3

【教師】 いじめや、度の過ぎたいたずらがないように、休み時間や放課後なども配慮していますか。

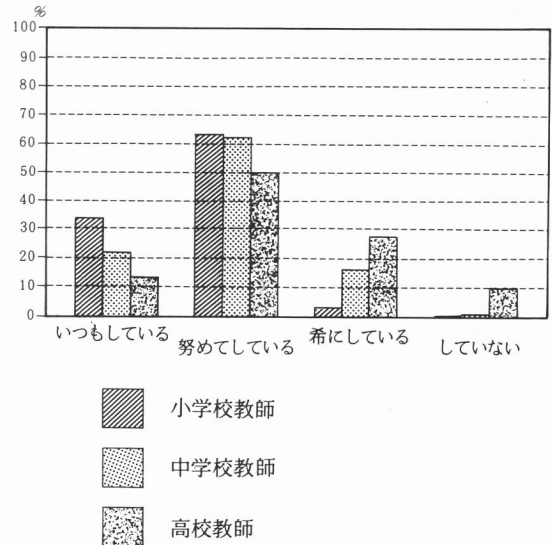


図1から、「ときどき不安になる」「毎日が不安である」を合わせると、小学生33%、中学生25%、高校生16%である。年齢が低いほど不安傾向が強いことが分かる。

このことについては、図2から見られる通り、保護者の意識も児童生徒とほぼ同じ傾向にある。

図3から、教師は、「いつもしている」「努めている」を合わせると、小学校97%、中学校83%、高等学校63%という結果である。

小学校の教師が最も配慮しているにもかかわらず、小学生の不安が一番高い。このことは、教師の指導の観点と保護者や児童生徒のニーズの違いなどから受け取り方のずれが考えられる。

高等学校の「希にしている」「していない」を合わせると、38%にもなるが、これは、高校生がすでにある程度の判断力と自律性を認められた存